



みやた かなみ ちゃん
(6さい)

まほうつかいに なりたい
な。だって そらを とべ
るし ほしい ものを な
んでも だせるもん。ほし
い ものが ありすぎて
たいへんなの。



おひさま保育園のおともだち



こいずみ まさとくん
(5さい)

にんじやに なりたいん
だ。テレビで みたけど
がつこよかつたよ。しゅり
けんで てきを やつつけ
て みんなを まもってあ
げるからね。

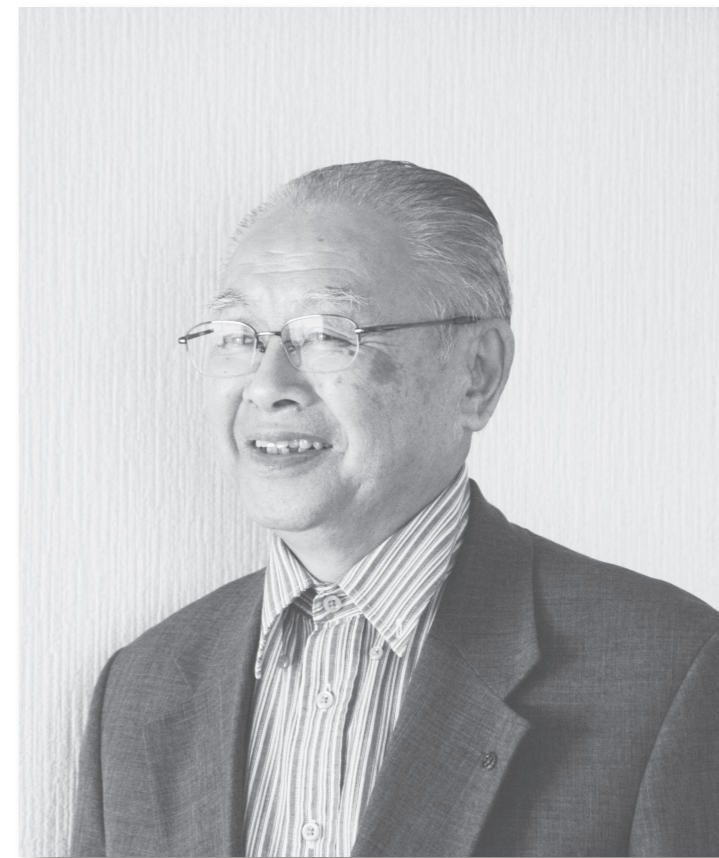
がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

何より自分が踊りが好きだから

弟子屈音頭の保存普及に取り組む

鈴木 幸栄さん(76歳・中央3)



10月31日に行われた町総合文化祭の芸能発表。(18ページ参照)とりを飾った弟子屈音頭の中に、今年初めておひさま保育園の園児の姿がありました。きっかけは、鈴木さんの呼び掛けです。

「わたしは園長を務める摩周丘幼稚園では、毎年、年長児が弟子屈音頭に取り組み、夏まつりをはじめいろいろないイベントに参加しています。子どもたちは一生懸命に頑張ることで、踊りに対する愛着や誇りを培っていきます。同じような経験をもっとたくさんの子どもたちにしてほしい、弟子屈音頭という郷土芸能を通して交流を深めたい。そういった思いで保育園に声をかけたところ、快く応じていただきました。幼稚園と保育園の年長児交流会を何度か行い、その中でも弟子屈音頭の練習を行ったこともありま

す。集大成として、町の文化祭と一緒に出演できたことは、とてもよい思い出になりました。弟子屈町文化協会の「弟子屈音頭・月の摩周 普及保存部」の部長を務める鈴木さん。弟子屈音頭を次代につないでいきたいという思いの原点は、どこにあるのでしょうか。――7、8年前だったでしょうか。関東に住んでいる知人の娘

さんが弟子屈に里帰りしたときに「昔、弟子屈音頭を踊ったことがある。心の支えであり、ふるさとの思い出」と話すのを聞き、ぜひ若い世代にも弟子屈音頭に親しんでほしいと思いました。いつかふるさとを巣立ち、町外でふるさとを思うとき、弟子屈音頭を思い出してほしい。そう思い、弟子屈音頭の振り付けをされた吉野孝先生にお願いして、幼稚園の園児に踊りを教えていただきました。今では、部員が小学校も訪問しています。

子どもたちへの継承のほかに、保存部としての活動も活発になっていきます。――弟子屈音頭は、作詞・作曲・振り付け、すべて弟子屈の方によるものです。こういった曲は、全国的にも珍しいものです。この素晴らしい弟子屈音頭を守っていきたく、以前から任意の団体として活動してはいましたが、今年正式な組織としてあらためて出発しました。70人の方に入部していただき、感謝しています。

これからの目標は。――弟子屈音頭が町の郷土芸能として指定されることが夢です。また、中学校や高校でも踊りを教えていきたいですね。何より自分が踊りが好きだから、一生懸命になれるんですよ。



木綿美(ゆうび)キルトグループ
代表・佐藤 ムツ子さん
会員・11人



木綿美キルトグループの皆さん
後列中央が代表の佐藤さん



活動の様子

毎月第1・第3月曜日に公民館で行っているとのこと。新規会員も随時募集中心のことです。興味のある方は代表の佐藤さん ☎482-1475 まで。

さまざまな色や形の布片をつなぎ合わせて模様を作る手芸、パッチワーク。このパッチワーク作品作りを行っているのが、木綿美キルトグループの皆さんです。結成は1985(昭和60)年。きっかけは、公民館講座として3カ月ほど開催されたパッチワークの講座でした。当時はまだ聞き慣れない新しい手芸方法に、講座が終了してからも親しんでいきたいという有志が集まり、講座の講師であった辻谷美代子先生を引き続き講師に迎え、サークルとしてスタートしました。木綿美というサークル名は、針や布を使用することから名づけました。以来、月2回、町の総合文化祭出品などに向けた作品作りなどを行ってきた皆さん。「最初のころは、布や付属品が手に入らず、辻谷先生にいただいたり、会員同士で交換したりと、苦労したこともありましたが、話ししたのは、初期メンバーの1人である遠藤恵美子さん。その後、辻谷先生が90歳で講師を退かれてからも、辻谷先生に少しでも近づきたいという気持ちで、活動を行ってきたそうです。代表の佐藤さんは「作品作りには苦労もありますが、そういったことも含めてみんなで話し合ったりすることが楽しいです。会員の皆さんも活動を楽しみにしてくれているようです」と話していました。活動は毎月第1・第3月曜日に公民館で行っているとのこと。新規会員も随時募集中心のことです。興味のある方は代表の佐藤さん ☎482-1475 まで。



文化祭で展示された会員の作品